

平成19年度 基幹種雄牛「^{しげひろ}茂洋」

畜産試験場

1 取り上げた理由

肉用牛集団育種推進事業による和牛産肉能力検定は、優れた宮城県産の種雄牛を造成し、地域の肉用牛の改良を推進するため実施されている。検定の結果、宮城県の肉用牛改良委員会で「茂洋」が宮城県基幹種雄牛として認定されたので、その特性を示し普及技術とする。

2 普及技術

1) 和牛産肉能力検定済み種雄牛 「茂洋」

2) 特性等

a 生年月日，産地，血統，特性(優点・欠点)

名号	生年月日	産地	父	母方祖父	母方曾祖父	優点	欠点
茂洋	H13.1.9	石巻市桃生	茂勝	糸晴波	糸花	体深,中軀幅,尻	腿,やや肩後

b 現場後代検定

名号	現場後代検定					
	検定頭数	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	BMS No.	A4・5率
茂洋	19(注1)	29.7	445kg	64cm ²	7.4	79%
全国(注2)		28.4	421kg	52cm ²	5.0	

(注1): 去勢牛12頭, 雌牛7頭 (注2): 平成17年度全国平均値

3 利活用の留意点

- 1) 茂洋は体深, 中軀幅, 尻の形状に優れており, 枝肉重量, ロース芯面積, 脂肪交雑の遺伝能力が非常に高い。
- 2) 茂洋の交配には, 奥北茂, 茂系桜, 第2波茂, 茂系波など本県基幹種雄牛の娘牛や第1花国, 北国7の8, 紋次郎, 菊谷等の娘牛が推奨される他, 鹿児島・宮崎県からの導入牛にも適している。
- 3) 茂勝の娘牛との交配では近交係数が17%となるので, 避けた方がよい。

(問い合わせ先: 畜産試験場酪農肉牛部 電話0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 肉用種雄牛の検定 (昭和55年度～)
- 2) 参考データ

a 和牛産肉能力直接検定成績

名号	1日平均 増体重	365日 補正体重	T D N 要求率	粗飼料 摂取率
茂洋	1.56kg	482.3kg	3.68	32%
全国(注3)	1.20kg	410.3kg	4.37	47%

(注3)：平成13年度全国平均値

b 「茂洋」の標準化育種価 (SBV)



* 標準化育種価 (SBV) について

- ・上記6形質について、県内繁殖雌牛の平均値を0として種雄牛の持つ遺伝能力(育種価)を次式によって標準化したもの。

$$SBV = (\text{当該種雄牛の育種価} - \text{県内繁殖雌牛の育種価平均}) / \text{県内繁殖雌牛の育種価}$$

- ・標準化育種価の値が大きいほど好ましく、その大きさを個体の持つ能力・特徴を表すことができる。
- ・一般的に1を超える場合、その能力を強く有するものとみることができる。

* 育種価「A～C」評価について

- ・各形質において、上位1/4以上の範囲に入る育種価を持つ個体を「A」、上位1/4未満、平均以上の育種価を持つ個体を「B」、平均未満の育種価を持つ個体を「C」として表示。

c 「茂洋」の広域後代検定成績

名号	BMS		枝肉重量		ロース芯面積		バラの厚さ	
	育種価	順位	育種価	順位	育種価	順位	育種価	順位
茂洋	3.16	1	54.58	16	15.86	1	0.48	21
全国(注4)	-0.01		34.42		2.59		0.33	

(注4)：平成19年度全国平均値

* 広域後代検定について

- ・平成19年度は広域後代検定事業参加15道県から候補種雄牛48頭が評価され、「茂洋」はBMSとロース芯面積で全国1位。

- 3) 発表論文等
なし